

Pick Up

今月の話題

ふくしまDCでSL特別運行 川桁駅で歓迎



太鼓の演奏でお出迎え

県や県内市町村、地元観光事業者、JRグループなどが一体となり、地域の魅力を発信する「ふくしまアステイネーションキャンペーン(DC)」に合わせて、4月11、12日の両日、JR磐越西線の郡山―会津若松駅間で「SLしあわせの風ふくしま号」が運行されました。

ふくしまDC限定で運行された蒸気機関車は、時折汽笛を鳴らし、煙を吐きながら春の猪苗代町を力強く駆け抜けました。両日とも、川桁駅のホームでは、猪苗代観光協会や町の職員らがご当地キャラクター「ひでよくん」とともに乗客らを歓迎しました。横断幕や手旗で出迎え、12日には川桁謡真鼓楽会が太鼓の演奏を披露し、乗客らを喜ばせました。

沿線には多くの鉄道ファンが集まり、夢中でカメラのシャッターを切っていました。



雄大な磐梯山を望みながら走るふくしま号

Contents — 【目次】

- 02 Pick Up
- 03 特集 データから見る 皆さんの健康状況
～今、知ってほしい3つのポイント～
- 06 INAWASHIRO CHIIKI OKOSHI KYOURYOKUTAI
活動を一挙紹介！
- 08 108人の区長に委嘱状交付／職員紹介
- 10 令和7年度下半期財政状況
- 12 まちのわだい
- 14 ホットニュース／ふくしまDC特別企画／スク
ールトピックス
- 16 いなわしろタウンページ
- 20 暮らしの情報広場
- 22 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー

特集

データから見る 皆さんの健康状況 ～今、知ってほしい3つのポイント～

皆さんの健康状況のデータから、「働き世代の健康」「医療費の現状」「健診と予防」に関する課題が明らかになりました。今月号では、これら3点についてデータをもとに紹介します。

働き世代の健康が課題

福島県は、平均寿命が全国と比べて短く、本町の男性の平均寿命は県よりもさらに短い状況にあります。死因は、がんが第1位ですが、心疾患や脳血管疾患による死亡率は、全国と県を上回っています。

また、40～64歳における要介護認定の主な原因は、脳血管疾患と筋・骨格疾患が上位を占めています。脳血管疾患は、後遺症が残る場合も多く、日常生活に支障をきたすことが少なくありません。さらに、こうした状況は地域社会にとっても大きな損失につながります。

少子高齢化が進む中、社会を支えていくためにも、働き世代の健康を守ることが急務です。

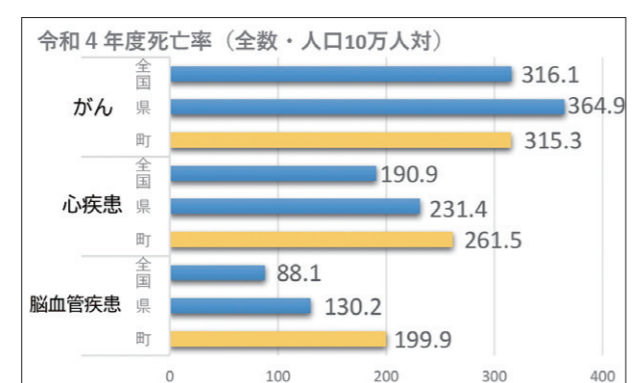
I. 働き世代の健康

平均寿命

	猪苗代町 (令和元年度)	福島県 (令和2年度)	全国 (令和2年度)
男性	80.4歳	80.6歳	81.5歳
女性	87.1歳	86.8歳	87.6歳

・県の平均寿命は、男性が全国45位、女性が46位となっています。

死亡率



保健統計の概況令和5年度版より

・死因は、心疾患と脳血管疾患が上位を占めます。

介護

○町の40～64歳の要介護認定者疾病別割合(令和6年度)

区分	受給者区分		2号			
	年齢	40～64歳	件数	割合		
要介護認定状況	被保険者数	4,187人				
	認定者数	13人				
	新規認定者数	6人				
	介護件数	13				
要介護突合状況	有病状況(レセプトの診断名より重複して計上)	再) 国保・後期	4			
		疾患	順位	疾病	件数	割合
	血管疾患	循環器疾患	1	脳血管疾患	4	100%
			2	虚血性心疾患	0	0%
			3	腎不全	0	0%
		合併症	4	糖尿病合併症	0	0%
	基礎疾患(高血圧・糖尿病・脂質異常症)	3	75%			
	血管疾患合計	4	100%			
	認知症	認知症	1	25%		
		筋・骨格疾患	筋骨格系	4	100%	

▼問い合わせ先
保健福祉課 健康づくり係
☎(62)2115

今月の表紙

「貴婦人」の愛称を持つ蒸気機関車「C57 180」号機。普段は「SLばんえつ物語」として、JR磐越西線の新津(新潟市)―会津若松駅間を運行しています。11、12日の2日間、ふくしまDCのロゴマークをあしらったヘッドマークを取り付け、特別運行しました。



【撮影日】 4月12日
【撮影場所】 川桁駅周辺



マチを好きになるアプリ
ios用 Android用



Ⅲ. 健診と予防

健診結果と生活習慣の傾向
町の健診結果では、腹囲、メタボ、血糖、血圧、喫煙の割合が全国や県より高い状況です。
また、40代では「就寝前の夕食（週3回以上）」「朝食や甘い飲料の毎日摂取」「朝食欠食（週3回以上）」が多い傾向にあります。

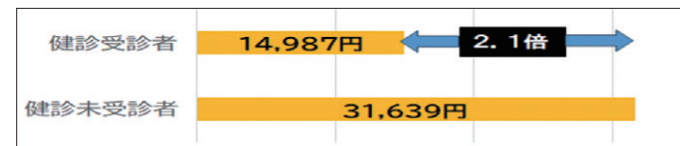
特定健診
特定健診は、高血圧症や糖尿病など生活習慣病のリスクを早期に発見し、予防につなげることを目的としています。受診率は微増し、本町は県内11位ですが、40代男性と50代男女で低い状況です。

特定保健指導
健診結果に基づき、生活習慣の改善が必要な人に対し、保健師や管理栄養士が改善方法とともに考え、行動につながるよう支援しています。

健診受診と医療費の関係
生活習慣病治療中の人では、健診受診者と未受診者で医療費に差があります。未受診者は早期発見の機会を逃しやすく、重症化による負担増加の可能性がります。

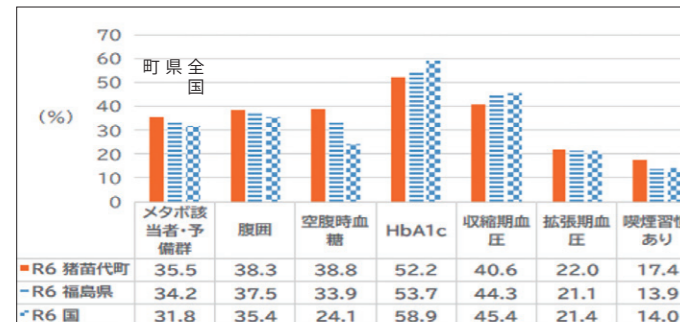
特定検診

○令和6年度健診受診の有無と生活習慣病に係る医療費（年間個人負担分）

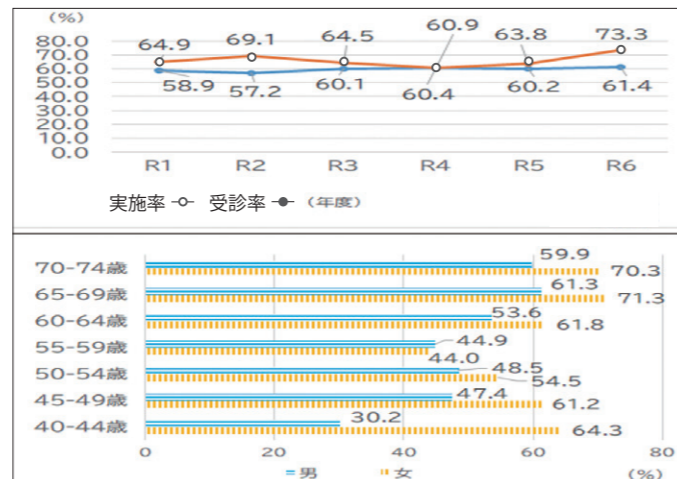


KDB「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」より

○令和6年度健診結果の状況



○国保特定健診受診率・保健指導実施率（下段：令和6年度年代別受診率）



・受診率と実施率はわずかに増加し、国の目標である60%は達成しています。

～ 「健診は、体を知る第一歩」 ～

「働き世代の健康」「医療費の現状」「健診と予防」に関する課題を解決するために、私たちにもできることがあります。それは、毎年健診を受けることです。それは、毎年健診を受けることで、自分の体の状態を把握するための大切な機会です。「医療機関で検査を受けているから健診は不要」と思っていないでしょうか。診療のための検査だけでは、特定健診の全ての項目を網羅できない場合があります。

また、健診を受けることで、自分の生活習慣が適切かどうかを確認することができます。車の車検の実施率は、ほぼ100%である一方、特定健診の受診率は60%前後にとどまっています。

心臓病や脳血管疾患は、予防可能な病気です。若い世代から後期高齢者まで、ぜひ毎年健診を受け、ご自身の体の状態を確認しましょう。日々の生活習慣の積み重ねが健康な体をつくります。始めるのに遅すぎることはありません。今日から、自分のためにできる健康習慣の一つでも実践しましょう。



保健福祉課
統括保健師兼
健康づくり係長
長嶺 潮里

Ⅱ. 医療費の現状

医療費は増加傾向

令和元年度と令和6年度の医療費を比較すると、1カ月における1人当たりの医療費は約3800円、年間では約4万6千円増加しています。
また、脳血管疾患が総医療費に占める割合は、全国や県より低いものの、町の年度別で比較すると、総医療費の割合は増加傾向にあります。

人工透析の現状
ちなみに歯科医療費と比較すると、1カ月における1人当たりの医療費は約3000円、年間では約33000円増加しています。近年の研究では、歯周病が心臓病や血管疾患、糖尿病など全身に影響を及ぼすことが分かっています。

人工透析患者は、50代から増加する傾向にあります。国保の人工透析患者数は6人、後期高齢者は23人です。一見、患者数は少なく感じられるかもしれませんが、透析治療には相応の医療費がかかり、患者本人の身体的・生活面での負担も大きい状況です。
透析に至らないためには、高血圧・糖尿病・高尿酸血症などの適切な管理が重要です。

医療（国保）

○歯科医療費

	令和元年度	令和6年度
①当年度歯科医療費	7,216万円	7,148万円
②1カ月における1人当たりの歯科医療費	1,666円	1,943円
③②の県内平均歯科医療費	1,857円	2,092円

KDB「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」「同規模比較」より

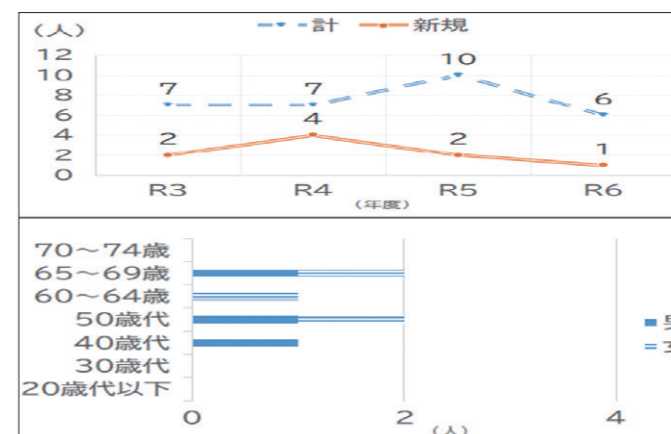
○内科医療費

	令和元年度	令和6年度
①当年度内科医療費	11億3,736万円	11億607万円
②1カ月における1人当たりの内科医療費	26,251円	30,060円
③②の県内平均内科医療費	27,596円	30,352円

KDB「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」「同規模比較」より

○人工透析患者数

（下段：令和6年度男女年齢別内訳）



・人工透析新規患者数は、令和4年度に一時増加しましたが、現在は減少傾向にあります。
・人工透析患者は、50代から増える傾向がありますが、男女比の差はありません。

○虚血性心疾患、脳血管疾患の総医療費に占める割合

	猪苗代町	福島県	全国
脳血管疾患 (%)	1.23	1.69	2.00
虚血性心疾患 (%)	2.37	1.15	1.39

KDB「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」より
・脳血管疾患の総医療費に占める割合は増加しています。